

## デスクセットのデザイン研究

菊池 元 田原 健次

### 〔目的〕

下記3点を主要目的とし、商品化水準での開発を行ったものである。

- イ、ノックダウン構法
- ロ、効果的パッケージング
- ハ、ホームサイズによる多用途性

### 〔概要〕

木製量産脚物における、ノックダウン構法等は多数種、各方面に研究開発をみるが、脚物でもデスクセット類には効果的パッケージを両立させた研究開発例は甚だ少なく、ここに研究の必要分野を考慮することとなり、上記目的を設定し、その開発を試み又業界指導用としても、製品化したものである。

### ○ 成果として

今日、県内においてもノックダウン及びUNIT構法等の技術レベルは一般化して来たがデザイン研究（市場調査、機能性、スタイリング等）の不勉強が業界衰退の主要因とも思われるので、これらの浮揚策の一環として、この研究開発を一つのプロセスの例として理解してもらい、事業向上に参考点を見

出してもらうことを主要目標（下記列記）としたが、展示会等の発表を通じて主旨説明等も加えているので所期の目的は具体化出来たものと考えている。

### ○ 主要目標

- 1) 効果的ノックダウン構法の開発は金具など、特別部品の開発を必要とする。
- 2) 商品化はパッケージ迄考慮することがメーカーサイドとしての一つの責任であるが（県内メーカーには無理解傾向が強い）輸送時の最大のポイントとして効果的なデザイン研究を必要とする。
- 3) 使用条件が脚物の場合、場所的に制約されること。使用目的が勉強、書斎、オフィス等限定性が強く一般の共通性が少ないこと。サイズに関しても年令的に 或いは 家屋スペース上制限が多いこと。又、用途性を考慮する場合デスク面の一面利用が多く空間的にデスク面立方体積として効果的に使用する多用途性（製品では「たな」を併用）が、考慮されて居らず、以上の諸点のデザイン研究を必要とする。

## 幼児用遊具のデザイン研究

鮫島 正登美 田原 健次

### 〔目的〕

下記の2目的により研究を進めたものである。

- 1) アクティブな環境に、そわそわしい室内用遊具の開発
- 2) プラスチック利用研究の一環として幼児用具の研究

### 〔概要〕

市販品に幼児用具の傾向を見る場合、箱物を中心とした「静」的用具が大半を占めている。しかし幼児の育児環境は「動」が主体的内容でなければならないと考えられるので、これらについて更に遊具関係の調査を行ってみると室外用としての自転車、ブランコ等が中心であり室内用遊具の開発の遅れを見出すことが出来る。このような市場調査に鑑み室内用遊具の分

野がblankとなっていると、考えられるので、ここに焦点を絞って開発を試みた。

### ○ 成果として

幼児の対象範囲を就学前とし安全な用具デザインを前提としたものだが、これについては下記諸点に基づいて具体化を図っている。即ち、イ、幼児の体格調査、ロ、イ、プラスチック材の選別、ハ、用具の多用途性、ニ、組立て遊び及び加工面上のノックダウン構法、ホ、安全性、ヘ、カラーリング等であるがプラスチック材の本格的利用等初めてのこともありモデリング等によって慎重に作業を進めた。この間3ヶ月に亘って一応試作を終え、実用性の確認を求めるべく、その使用状態を観察するため最寄りの幼稚園において実物により動作、強度、サイズ